



知床科学委員会

しんぶん

エゾシカ・陸上生態系

ワーキンググループ NO.5



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

エゾシカ・陸上生態系 ワーキンググループって?

知床半島で、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。

この会議での意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

今回の会議

6月24日(月)に釧路地方合同庁舎にて、今年度第1回目の会議がありました。

必見!
TOPIC

知床岬のエゾシカ減少、植物回復中

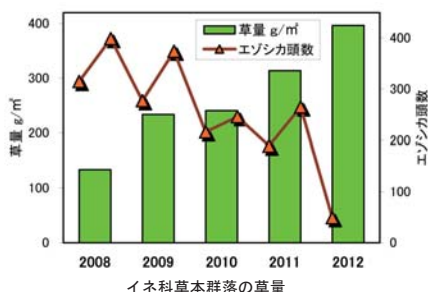
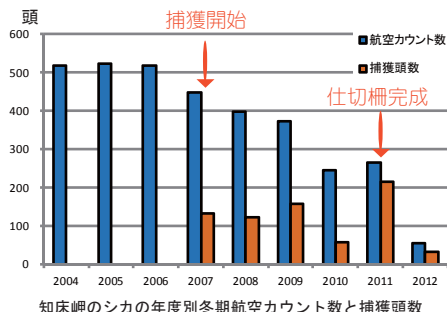


2007年度からシカの捕獲が開始された知床岬先端部では、6年間の捕獲数が717頭に達しました。特にシカを追い込みやすくするための仕切柵を整備した2011年度以降、捕獲効率が格段に向上しました。

その結果、岬先端部(約7km²)のシカ生息数は2013年春時点で20~30頭程度となり、目標としていた1平方キロあたり5頭以下の低密度状態を達成しました。知床岬の植物は目に見えて回復してきています。



現在の知床岬。
イネ科の草の丈が以前より高くなってきました。



シカが減って、植物が増えてきてるね



シカに食べられないとこんなに植物育つんだね



シカ侵入防止柵の中の様子。このような状態に知床岬全体を戻すのが目標です。

エゾシカ捕獲事業の最終目的は、シカをたくさん獲ることではなく、あくまで知床岬の環境を本来(1980年代以前)の姿に戻すことです。

今後は、周辺から流入してくるシカをたとえ少数ずつでも根気強く捕獲し続け、知床岬のシカの低密度状態を維持することが重要です。

今回話し合ったこと

- ① 昨シーズン実施されたシカ関連事業の結果と今シーズンの計画
- ② シカによる植生への影響を評価する指標の開発状況
- ③ 世界遺産地域の周辺地区等におけるシカの生息状況と管理方針

注目!

生態系の回復を示すモノサシは？

この会議では、シカを減らすことによつて知床の生態系がどのように回復しているかを確認するためのモノサシとして何が適しているかについて議論されています。

知床のほとんどの場所ではシカが増加することによつて、シカが好んで食べる植物が減り、シカが食べない植物ばかりが増えてしまっています。シカを減らすと、シカが好む植物が回



オオバナノエンレイソウ



エゾカンソウ



チシマセンブリ

復すると同時に、シカが好まない植物は日陰になつたり生育場所を失つたりして減少することが予想されます。

これまでの調査から、シカを減らすとササ類、オオヨモギ、クサフジ、ガンコウラン、エゾカンゾウ、チシマセンブリ、エンレイソウ類などが回復すると予想され、これらがモノサシとして適していると考えられています。逆にシカに食べられないハンゴンソウやトウゲブキなどは減少すると考えられます。

今後はこれらの植物に特に注目して調査が進められる予定です。

今後、知床全体でシカの数減らすためには、多くの地区で短期集中的な捕獲を行う必要があり、地域住民の皆様のご理解が必要不可欠です。引き続き、通行止等へのご協力をお願いいたします。

注目!

知床半島全体のエゾシカの増減は？

現在、知床半島内の各地で様々なエゾシカの捕獲事業が行われています。

世界自然遺産地域内の

知床岬、ルサー相泊地区（羅臼町）、幌別―岩尾別地区（斜里町）では、環境省が捕獲を実施しています。遺産地域外では、林野庁、羅臼町、斜里町などによる捕獲事業や一般狩猟が実施されています。羅臼・斜里両町内での捕獲総数は、昨年度は1200頭以上になりました。

シカが増えると、直接には食害によつて植物に被害が生じますが、ひいては植物を食べたり、そこで暮らしたりする昆虫などの生物へも波及します。シカの個体数管理は、こうした生態系内の生物への影響も調べながら行う必要があります。知床で行われているさまざまな生物モニタリングを活かしつつ、生態系を回復させるのにいくらかでもお役に立ちたいと願っています。

委員 牧野 俊一

委員の牧野です。



森林総合研究所 北海道支所長。主に昆虫の多様性を通して森林を見てきました。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます！



■問合せ先■
環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575